

事業者温室効果ガス削減報告書概要(第一計画期間) 第1年度分

1 事業所の概要

事業者の名称	東日本旅客鉄道株式会社 JR仙台病院		
事業所の名称	東日本旅客鉄道株式会社 JR仙台病院		
事業所の所在地	仙台市青葉区五橋1-1-5		
主たる事業	医療業		
事業者の該当要件	<input type="radio"/>	条例第2条第5号イに該当する特定事業者	
	<input type="checkbox"/>	条例第2条第5号ロに該当する特定事業者	
	<input type="checkbox"/>	条例第2条第5号ハに該当する特定事業者	
	<input type="checkbox"/>	条例第15条第1項に該当する一般事業者	
温室効果ガス排出抑制のための基本方針	JR仙台病院はJR東京病院とともに東日本旅客鉄道(株)の企業内病院として、エネルギーの削減に向けた取組みは病院施設とはいえ、大きな関心事である。平成12年7月、現在地に新築開院して以来、使用エネルギーの把握を行い、削減量が着々と目に見える形で表れている。使用エネルギーの大半は空調設備に係わるものであり季節の暑さ寒さに大きく影響を受けるが、これまでの経験と各種収集したデータ分析等を通して削減に向けて前向きに取り組んでいく。		

2 温室効果ガスの排出状況等

温室効果ガスの削減目標	基準年度	2019 年度	基準排出量	3,979 t-CO ₂	基準原単位	0.1452	
		目標年度	2022 年度	目標排出量	3,800 t-CO ₂	目標原単位	0.1387
			削減率	4.49 %	削減率	4.47 %	
温室効果ガスの排出状況	第1年度	2020 年度	排出量	4,022 t-CO ₂	排出原単位	0.1467	
			削減率	-1.09 %	削減率	-1.04 %	
		排出量等の増減理由	2020年度エネルギー使用量は2019年度をわずかに上回り、目標には届かなかった。2020年8月には契約電力超過の事象が発生し、電力量の推移を注視した。結果として使用電力量は0.7%減少したものの、ガス使用量が3.6%増加した。事由として冬季(12~2月)のガス使用量を比較すると2020年度は2019年度より16.5%増大した。要因として寒冷な冬季であったため暖房需要が高く、安定した暖房を確保できる冷温水発生機を多用し、稼働時間の増大に伴う中圧ガス量の増大が大きな要因であったことによる。なお、8月の契約電力超過の大きな要因は夏場に老朽化した冷温水発生機の稼働時間の増大に伴うポンプ類の負荷増とみているが、11月に再生器の取替が行われ性能向上による結果を期待していきたい。				
	第2年度	2021 年度	排出量	t-CO ₂	排出原単位		
			削減率	%	削減率	%	
		排出量等の増減理由					
	第3年度	2022 年度	排出量	t-CO ₂	排出原単位		
			削減率	%	削減率	%	
		排出量等の増減理由					

3 温室効果ガスの排出抑制に関する取組

基本対策の実施状況	基準年度	92 %	目標年度	96 %
	第1年度	92 %	実施状況の説明等	エネルギー使用量の分析でガス使用量を時間帯別・用途別に推計して見える化を図り、熱源機器運転に対する意識向上を図っている。
	第2年度	%	実施状況の説明等	
	第3年度	%	実施状況の説明等	
選択対策の実施状況	項目			実施状況
	エネルギー使用量の見える化(前年度比較)			実施済
	外部機関による省エネ診断			未実施
	エネルギー使用量の見える化(分計による課題発見)			実施済
	熱源設備 冷却水温度の適正管理			実施済
	熱源設備 冷却水の水質管理			実施済
	窓の断熱性向上			実施済
	デマンド管理			実施済
	ボイラーの給水及びブローの管理			実施済
その他の対策の実施状況	項目	具体の取り組み内容		実施状況
	従業員の自動車利用の抑制、公共交通機関の利用促進	通勤は基本的に公共交通機関利用のみ支給を行うことで、自家用車利用の抑制を図っている。		実施済
	廃棄物削減対策の実施	リサイクル可能な廃棄物と不可能な廃棄物を排出前に分別し、廃棄物の削減に取り組んでいる。		実施済
	その他地球温暖化を防止する対策の実施	通年において、ビジネスシーンを考慮し、室温に合わせて快適に執務ができる服装を着用することとしている。		実施済